



カナダは太平洋国家として、今後、日本など環太平洋諸国との関係が深まるものと期待されている。

比較的近い関係を理解しなければならぬ。したがって、カナダの抱いている関心がいかに重要であるかを分かってもらうためには、単に政治家や政府役人だけでなく、広く民間における実力者とも通じあう努力が必要となる。

学術、文化などの分野での人的交流による相互理解の増進も、外交関係にとつてきわめて重要である。個人レベルで得た相互理解は、ひいては社会一般の認識を高め、全般的な外交関係の改善にも役立つことになる。

カナダは独自の文化と生活様式をもち、伝統的な価値を大切にしたいと思っている。そして文化交流を通じて環太平洋諸国とこれらの価値を共有したいと願っている。こうした文化面での活動は、困難な状況を打開する道を切りひらくことにもつながる。中国の「ピンボン外交」は、その好例であろう。全く未知の人と取り引きする人はいないからである。こうした理由から、カナダは現在、政府・民間の後援によるアジア・太平洋財団の創設を検討している。

アジア・太平洋財団

財団の目的は、大まかにいって、カナ

ダ国民とアジア・太平洋諸国民の相互理解、相互認識を深めるためのプログラムを作ることにある。この財団は、アジア・太平洋地域の国々および人々に對するカナダの熱意を示すとともに、すべての関係諸国にとって好ましい安定かつ充実した関係を発展させていきたいというカナダの政策意図を体现するものとなるはずである。カナダは財団を、さまざまな問題を解決する万能薬、あるいは即効薬と考えているわけではなく、むしろアジア・太平洋地域に対するカナダの関心、長期的協力の可能性に対するカナダの自信を表わすひとつの投資と考えている。

こうした構想を発展させるためには、まず財団の性格や目的を決めなければならない。さらに、こうした事業への参加

カナダと東南アジア諸国連合(ASEAN)は、昨年十月、産業、地域開発、通商面での協力を促進するための協定に調印した。

ASEANと協力協定

協定によると、カナダとASEANは両者間の技術提携を拡大するための機会を探る方向で協力する。またカナダはASEANに對する地域開発援助を現在より拡大するという希望を再確認した。通商上の協力については、両者は国際的な通商原則を守ることで合意をみた。

カナダとASEANとの経済関係は近年とみに拡大を続け、貿易額は、往復で

意欲をカナダ国内のあらゆる関係者に徹底させる必要もある。この事業は、もちろん、アジアおよび太平洋地域に関心をもつカナダの諸地域の支援を得た共同事業でなければならない。相互認識が高まることにより、カナダおよびアジア・太平洋地域の幅広い層の人々は、言語、文化、伝統の表面的な違いの奥に、共通の関心、共有の価値基準、共通の利益などを発見するはずである。このこと自体、この重要地域におけるカナダの経済的、政治的目的に大いに役立つだろう。

カナダとアジア・太平洋諸国との関係は、過去二十年間、ますます深く、多面的になってきた。今後も相互協力が増進し、同地域に対するカナダの政治的・経済的関係が深まる可能性ははつきりしている。

十一億四千万カナダドル(一九八〇年)に達している。

カナダのASEAN諸国との関係は経済分野にとどまらず、政治的、文化的な広がりも見せている。カナダはASEAN内部の協力体制づくりを支援したほか、八〇年、八一年には外務大臣がASEAN外相会議に出席している。

またカナダのいくつかの大学では、アジア研究が盛んになりつつあり、マスメディアの関心も高まってきた。

こうした一連の動きは、カナダが環太平洋地域をますます重視していることと表れと言えよう。

ナダは、この地域における永続的平和と軍事的緊張の終結を推進するため、できるだけのことをする。

日本、オーストラリア、ニュージーランドに対しては、似通った価値観をもつ友好的西側先進国同士として、緊密な協議と政策調整が必要である。中国はまた中国なりに、環太平洋地域の安寧に對するカナダの熱意を歓迎している。

環太平洋地域においてカナダが友邦諸国の意欲に応えるためには、政策や計画をそれぞれの国の状況に適したものになければならない。たとえば日本においては、独特の合意制度や政府と労組間の